

工藤慎太郎(編著)

運動機能障害の「なぜ？」がわかる評価戦略

評者 鵜飼建志

中部学院大看護リハビリテーション学部理学療法学科

本書、『運動機能障害の「なぜ？」がわかる評価戦略』は、工藤慎太郎氏(森ノ宮医療大)が手がける『「なぜ？」がわかる』シリーズの第3弾である。

運動器疾患における痛みや不調の原因は関節の運動機能障害であることが多く、正しく治療するためには正しい評価による原因の特定が不可欠である。運動器疾患の保存療法においては、早期に発症前のレベルまで改善することが十分期待できる。熟練したセラピストは、無意識に必要な知識・技術を選択し、患者を正しく評価・治療することで、患者を元のレベルやそれ以上に改善できる。しかしながら未熟なセラピストは、検査測定の方法論は知っていても、原因解明に至るまでの思考過程を理解していないため、正しい評価が難しい。これらの臨床的思考能力は、経験を積むなかで自ら会得してもらいたいところであるが、それには多くの時間を要してしまう。本書は、そういった問題の改善が期待できる一冊である。

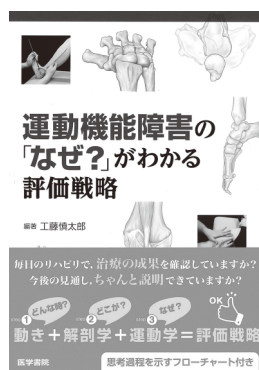
最初に疾患名を挙げて、その解剖学的な解説や検査方法などを載せるような一般的なスタイルを、本書はとらない。まずは、「手部のしびれ」や「足関節後方の痛み」などの漠然とした症状からスタートする。運動器疾患に対する運動療法では、痛みやしびれなどの患者の主訴を聴くことから評価がスタートするために、その流れに沿っているのであろう。

次に、臨床的思考過程を3つのステップで説明している。主訴の部位に対し、伸張・圧縮・摩擦の各ストレスが、どのようにかかっているかを確認することがステップ1である。そのストレスが、どの組織に損傷や炎症を引き起こすのかという解剖学的な要因をピックアップし、それぞれの要因に対する検査方法を解説しているのがステップ2である。その部位にストレスが集中する原因を選定し、それに応じた運動学的検査を紹介しているのがステップ3で

ある。

このように、原因を明確化していく過程を示しながら、病態や検査方法を紹介している。そのため、評価の手順がイメージしやすいうえに、臨床上、必要な知識を全体的に網羅できる。また、フローチャートを用いることで、若いセラピストは順を追って評価を進めることができる。もし治療効果が得られないときには、フローチャートを見直し、別の原因の可能性を探ることも容易である。学生にもわかりやすいように、筋においては起始・停止・支配神経・作用を表でまとめてあり、解剖学や運動学の図が多く用いられている。普段の学習にはもちろん、実習においても役に立つであろう。

本書は、発展途上にある経験の浅いセラピストや学生に、臨床的思考過程を効率よく伝え、成長を促してくれるだろう。



B5判・360頁
定価：本体 5,200 円 + 税
医学書院刊，2017 年